ふぞく新聞 vol.1

教育学部附属高松小学校

令和六年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）「善竹狂言会」によるワークショップ・公演を開催

生の狂言に息をのむ

東京を拠点に活動するプロの能楽師をお招きし、伝統芸能への理解を深める授業が行われました。このような機会を設けた理由について、小早川副校長は「本校では、実際に体験を通して学ぶことを大切にしている。本物に触れることで理解を定着させ、五感で感じたことを自分の言葉で語れるようになることを期待する」と話します。今回の目玉は、狂言師と児童たちが共演し、狂言を披露すること。6月の本番に先立ち、5月に事前学習を兼ねたワークショップが開催されました。「善竹狂言会」の狂言師・善竹十郎さんと大二郎さんから能楽の歴史や見どころを教わったあと、狂言の小舞「盃」を鑑賞。初めて観る伝統芸能に、みんな息をのんでいました。その後、代表者が集まって稽古を開始。実際に動いてみると想像以上に運動量があり、息を上げている児童がたくさんいます。稽古に参加したひとりは「思っていたより難しい。本番までに家でたくさん練習したい」と話してくれました。

本物に触れ、児童たちの表情がキラキラと輝くのが印象的でした。

二日目に、貴重な装束着付け体験を開催。感想は「暑い、重い」。

「今日をきっかけに、日本文化に興味を持ってほしい」と奥川さん。

熱気に包まれた舞台本番

そうして迎えた本番の日。体育館には舞台が組まれ、さながら能楽堂のようです。この日は「観世九皐会」の能楽師・奥川恒治さんらも加わり、能と狂言の違いについてより深く学習。奥川さんによる能「羽衣」を鑑賞したあとは、お待ちかねの共演の時間です。披露するのは狂言「菌（くさびら）」。ほぼぶっつけ本番なのに、善竹さんと児童たちの息はぴったり。キノコ役を懸命に演じる友人たちの姿に感化され、客席からは「がんばれ！」「倒れるな！」といったエールが飛び交います。そうして演者と観客の熱が一体化し、舞台は大成功。「650年途絶えずに続いた演劇は、世界を見渡しても能と狂言だけ。古い演劇に込められたメッセージが、現代も生き続けていることを感じてもらえれば嬉しいです」と大二郎さん。二日間の体験を経て、児童からは「昔の文化をもっと知りたくなった」「家族とこんぴら歌舞伎に行ってみたい」といった感想が聞かれました。未来の能楽師が、この中から誕生するかも!?

教育学部附属特別支援学校高等部

やまもも良品 作業販売

7月12日に幸町キャンパスで、附属特別支援学校の生徒が作業学習の授業で製作した布製品やポンポン製品、窯業製品、新鮮な野菜等を販売しました。作業学習とは、障害のある生徒が、将来働くために必要な知識、技能、態度等を育てるための授業です。「大学生や大学教職員の方に喜んでもらえる商品は何か」「買いたいと思ってもらえるためにどのような接客をしたらよいか」など、生徒がアイディアを出して準備を進めました。当日は、教育実習に来た大学生の他、大学教職員、教育学部以外の学生などたくさん来場いただきました。はじめは緊張していた生徒たちも、次第に「いらっしゃいませ！」「ありがとうございました！」と大きな声で挨拶し、買い物かごを優しく手渡すことができるようになりました。自分たちが一生懸命作成した製品をお客さんが手に取り、購入する姿を間近に見たことで、生徒たちからは「もっとよい製品を作りたい！」という意気込みが聞かれ、次の働く意欲につながりました。

詳しい情報はこちらから！

教育学部附属坂出小学校

パリ五輪出場の花車選手へエール！オンラインで激励会を実施

7月2日、2024年7月26日から開催されるパリ五輪に男子200メートル平泳ぎで出場される花車優選手とZoomを繋ぎ、激励会が行われました。花車選手は附属坂出小学校の卒業生であり、児童からは「夢を叶えるために小学生のうちにしておくとよいこと」や「うまくいかなかった時の対処法」等の質問があがり、花車選手からは目標を達成するためには逃げないこと、一つ一つをしっかり考えて進んでいくことの大切さをメッセージとして伝えてくれました。じっくりと言葉を大切にしながら語る姿は、彼のお人柄が伝わってくるようでした。

医学部附属病院紹介コーナー

健康の窓

整形外科長
石川（いしかわ） 正和（まさかず）教授

関節のことなら私におまかせ！

スポーツなどのケガを我慢して放置したことはありませんか？我慢して経過すると関節機能の低下や変形性関節症に移行する場合もありますよ。整形外科は高齢の患者さんが多い診療科ですが、若い人こそ我慢をせず、診断・治療を受けてほしいと願っています。

KUH vol.2 2023年春・夏号P12より

農学部附属農場

農場ニュース Farm News

満を持して附属農場がインスタグラム開設

毎年恒例、幼稚園の田植えの光景です。先生の話をよく聞いて大変上手に苗を植えることができました。この後は職員が水管理をして10月には稲刈りが待っています。

先日、ブドウに袋掛け作業をしました。これは、いままでに種を抜くために処理をしてきたブドウに病害虫が付くのを防ぐのと、日焼け対策です。いよいよ8月中旬出荷予定です。

農場インスタ開設！

農場の普段の活動内容や販売情報、日々の作業風景、成長記録などを分かり易く、附属農場を皆さんに発信していきます!!

詳細はこちらのQRコードから！